

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

生徒個々の「生きる力」「進路を切り開く力」の伸長を図る地域と密接に連携した教育活動により、地域社会に貢献できる能力と豊かな人間性を持つ人材を育成し、地域に信頼される高校をめざす。

- 1 生徒が積極的に参加・活動する「わかる授業」を推進し、「スモールステップで学びを支援」し、「確かな学力」を育成する。
- 2 キャリア教育の充実に努めると共に、自立支援コース並びに専門コース等において特色ある教育活動を展開し、主体的に進路実現できる生徒を育成する。
- 3 教育活動全体を通じて、規範意識、人権意識の向上を図るとともに、地域との交流・連携を深め、安全・安心な学校としての信頼感を高めていく。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成と授業改善

- (1) 生徒の参加・活動量の多い「わかる授業」をめざした授業改善に取り組み、自ら学ぶ生徒を育てる。
  - ア アクティブ・ラーニングを取り入れ、生徒の授業参加と活動量を積極的に増加させ、学びを深める。
  - イ 教員相互の授業見学、他校や中学校の授業見学、授業アンケートを効果的に活用し、観点別評価を意識した授業改善に取り組む。
  - ウ 国際交流事業、英語検定・GTEC等を活用し、国際理解教育を推進する。
  - エ 「阿武野プロジェクト(あぶプロ)～学力充実プロジェクト委員会」を中心として、組織的な授業改善を行い、生徒の学力の充実に努める。さらに新学習指導要領をふまえたカリキュラムマネジメントに取り組む。
- ※ 授業アンケートにおける興味関心、知識技能に係る生徒の満足度(R1:80%、R2:88%、R3:87%)を上昇させ、令和6年度には90%以上にする。
- ※ 教育産業における学力生活実態調査において、学習習慣上昇者の割合(R1:11%、R2:30%、R3:28%)を令和6年度には40%に上昇させる。
- ※ ICTを活用した授業(R1:6653時間、R2:6691時間、R3:7779時間)を増加させ、令和6年度も6000時間以上を維持する。

## (2) 学習環境の整備、授業規律の確立を図る。

- ア 学習環境整備、授業準備、授業規律の指導を徹底し、授業に集中できる環境を整える。

## 2 進路意識の高揚とコース制の充実

- (1) 進路指導部と学年が協力して、系統的キャリア教育の充実に努め、主体的に進路を選択し実現できる生徒を育てる。
  - ア 総合的な探究の時間(ライフ・プランニング=LP)、LHR(ロングホームルーム)において、系統的・継続的なキャリア教育の充実に努める。
  - ※ 進路決定率(R1:94%、R2:96%、R3:97%)を上昇させる。
  - ※ 学校紹介就職内定率は100%(R1:100%、R2:100%、R3:100%)を維持する。
- (2) 「自立支援コース」「スポーツ専門コース」「福祉・保育専門コース」をはじめ、すべての教育課程において、進路実現につながる特色ある教育活動を展開し、望ましい勤労観・職業観、基礎的・汎用的能力を養う。その際、島本高校との機能統合を意識して教育活動に取り組む。
  - ア コース毎に、生徒の実態や保護者のニーズに応じた教育内容の充実に努め、進路実現に導く。
  - イ コースの特色に応じて多様な教育活動を展開し、地域との交流・連携を深める。

## 3 安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の育成

- (1) すべての教育活動を通じて安全で安心な学校を作り上げ、規範意識、自尊感情、人権意識の高揚に努める。
  - ア 規範意識の高揚、基本的な生活習慣の確立を図るため、登校時の校門指導を強化し、一貫した生徒指導を行う。
  - イ LP、LHRにおいて、アサーション・トレーニングやメディアリテラシーの取組を含めた人権学習等を計画的に実施し、安全で安心な学校づくり、人権意識の高揚を図る。
  - ウ インクルーシブ教育の理念に基づいた「ともに学び、ともに育つ」教育、並びに地域の学校、諸団体との交流・連携を推進し、社会貢献を体験することで、生徒の規範意識、自尊感情、人権意識を育てる。
  - エ 防災教育、交通安全教育を計画的に継続して行う。
  - ※ 遅刻について、前年度比5%の減少を図る。
- (2) 生徒の自主的活動を支援し自尊感情を育成するとともに、自らを律し他人を思いやる心を育てる。その際には、生徒を「褒めて育てる」「スモールステップで育てる」を意識する。
  - ア 学校行事、生徒会活動の活性化を図る。
  - イ 部活動の活性化を図る。
  - ウ 一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援の充実に努める。
  - ※ 部活動加入率(R1:50%、R2:50%、R3:56%)を上昇させ、令和6年度には60%以上にする。

## 4 地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化させる学校力の向上

- (1) 広報活動を推進する体制を強化し、学校教育活動を活性化させる。
  - ア 中学校訪問、中高連絡会、学校説明会等を計画的、組織的に実施し、地域の信頼感を高める。
  - イ 学校教育活動全般について、適切な情報発信に努め、保護者、地域との信頼関係を高める。
- (2) 組織的、継続的に学校力の向上を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>確かな学力の育成と授業改善</b></p> <p>《生徒回答項目》(項目/肯定的回答/昨年度比、以下同じ)</p> <p><b>【1 確かな学力の育成と授業改善】</b></p> <p>《生徒回答項目》(項目/肯定的回答/昨年度比、以下同じ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 授業への積極的参加/85.6%/+1.3p</li> <li>* 興味関心をもって学習でき授業に満足している/77.3%/+0.8p</li> <li>* 学習内容を理解することができている/77.1%/-3.4p</li> <li>* 家庭での予習復習/23.7%/-1.9p</li> <li>* 私語が少なくしっかり授業を聞く雰囲気/75.5%/+1.0p</li> <li>* 清掃をおこない授業を気持ちよく受けられる環境整備/80.3%/+0.6p</li> <li>* 授業開始時に必要なものを準備、課題の提出/89.1%/+2.7p</li> </ul> <p>《教員回答項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 学習指導や評価についての話し合い/94.6%/-0.1p</li> <li>* 教材の精選と工夫/100%/+5.3p</li> <li>* 参加体験型やグループ学習など学習形態の工夫/100%/+13.2p</li> <li>* ICT機器の活用/97.2%/-0.2p</li> <li>* 授業規律の確立/78.4%/-0.5p</li> </ul> <p>《保護者回答項目》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 子どもは授業が分かりやすいと言っている/65.8%/-2.7p</li> </ul> <p>・ 教員の「教材の精選と工夫」「学習形態の工夫」は100%であるのに対し、生徒の「授業満足度」は77.3%(+0.8p)、「理解度」は77.1%(-3.4p)、「授業規律」は75.5%(+1.0p)となった。この差が生じた要因を分析し、改善を図る必要がある。</p> <p><b>【2 進路意識の高揚とコース制の充実】</b></p>	<p><b>【第1回 令和4年6月10日(金)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育大会の携帯使用ルールの検討に関して、先生方が見守る中で、生徒たちが学級まで巻き込んでやるのはいいことだ。自分たちで責任をもってやるという社会規範を育成できるのではないかと。</li> <li>・ スマートフォンの使用ルールを生徒会が中心となって考える取組みは良い。中学校においても、生徒会を通じて全員にアンケートをとり、「使うな」や「取り上げる」のではなく、「ルールをどうするのか」を問うた。その中で、生徒の自治的な力(どんなルールを立てるか、どこまで守れるか)を育成していくことができる。安全・安心のための規範意識を高めていく。地道ではあるが、こうやって進めていくことが大切である。</li> <li>・ 仕事の関連先やマスメディアで見聞きする中で、コロナ禍で学校生活が変化したことによる高校生への影響(部活動の制限、不登校の増加)を懸念してきた。あぶねっとをはじめ、様々な教育活動が今年実施できていると聞いて安心した。昨年、参加できなかった生徒が可愛想に感じる。</li> <li>・ 島本高校との機能統合に関して、いい部分を引き継いでパワーアップしてもらいたい。単なる統廃合ではないとことを広め、捉え方の誤解のないようにしていかなければならない。地域でも正しい情報を伝えていきたい。勘違いをしている子どもや保護者は多い。自分自身も上手に説明ができておらず、どうすればいいかわからないことがある。</li> </ul> <p><b>【第2回 令和4年11月4日(金)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナウイルスの影響でできなかったことが少しずつ復活していることを嬉しく思う。授業評価アンケートを見たところ生徒たちの肯定的な評価が多く、前向きに勉強に向かっているようだ。</li> <li>・ ここ3年ほどは色々な制限があって行事が思うように実施できなかったが、そ</li> </ul>

## 《生徒回答項目》

- \*進路学習の機会がある／93.1％／-0.1p
- \*地域や外部講師から学ぶ機会／89.3％／-0.8p
- \*専門コース授業の満足度（スポーツ）／82.7％／-3.7p
- \*専門コース授業の満足度（福祉保育）／87.5％／+1.1p

## 《教員回答項目》

- \*系統的なキャリア教育がなされている／86.5％／-8.2p
- \*進路選択についてのきめ細やかな指導／91.9％／-2.8p
- \*地域連携の機会／89.2％／+7.6p

## 《保護者回答項目》

- \*進路学習についての丁寧な指導／81.1％／+0.1p

- ・教員の「系統的なキャリア教育」の項目は高い肯定的評価を得てはいるが、86.5％（-8.2p）と下降した。「見えるプラン」を活用して、生徒が主体的に進路を選択できるよう、ライフ・プランニング(総合的な探究の時間)やLHR(特別活動)で行っている内容や教育活動を再点検し、生徒の発達段階に応じて3年間を見据えたキャリア教育の目標を明確にした、つながりのある教育計画、教育活動となるよう改善を図る必要がある。

## 【3 安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の育成】

## 《生徒回答項目》

- \*学校へ行くのが楽しい／79.5％／+2.0p
- \*保健室や相談室で相談することができる／68.1％／-5.0p
- \*人権の大切さを学ぶ機会／92.8％／-0.6p
- \*障がい理解が深まる／92.3％／-1.7p
- \*いじめへの対応／84.3％／+3.3p
- \*生徒指導への納得／63.8％／+1.0p
- \*防災や交通安全指導の機会／89.2％／-1.7p
- \*学校行事満足度／85.0％／+1.4p
- \*委員会活動やクラス活動に積極的に参加／61.5％／-0.6p

## 《教員回答項目》

- \*カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導／94.6％／+2.5p
- \*教育相談の体制／94.6％／+7.8p
- \*人権研修の機会／97.3％／+10.5p
- \*人権学習の取り組み／100％／+5.3p
- \*いじめへの対応と体制／97.3％／-2.7p
- \*生徒指導体制／100％／+5.3p
- \*学校行事の工夫・改善／97.3％／+7.8p
- \*体育大会や文化祭のルールや役割分担／86.4％／+4.8p

## 《保護者回答項目》

- \*子どもは学校に行くのを楽しみにしている／77.1％／-2.2p
- \*子どもは自分のクラスが楽しいと感じている／73.3.1％／-5.8p
- \*子どものことをよく理解してくれている／74.1％／-0.8p
- \*保護者の相談への対応／85.5％／-0.7p
- \*人権を尊重する教育への取り組み／86.2％／-4.4p
- \*いじめへの対応／75.5％／-3.4p
- \*生徒指導方針に共感する／76.6％／+2.0p
- \*子どもの文化祭や体育大会でのいきいきとした活動／83.8％／+2.6p

- ・生徒の回答では、「いじめへの対応」が84.3％(+3.3p)上昇。一方、「教育相談」は68.1％(-5p)と下がった。本校では令和元年度からスクールカウンセラーに加えスクールソーシャルワーカーも配置し、更に保健室や相談室だけでなく担任や学年の教員も生徒の相談を受ける体制を整えてきたが、今一度カウンセリングマインドを持って生徒指導に当たる必要性を全教職員で再確認するとともに、生徒に教育相談を広報し、活用しやすい環境を作る努力が必要である。
- ・「子どもは自分のクラスが楽しいと感じている」が73.3.1％(-5.8p)と下がった要因をさらに分析する必要がある。
- ・「生活習慣の指導」は85.3％(-1.0p)、「先生の指導への納得度」は63.8％(+1.0p)となった。引き続き、各ルールの意義を生徒に理解させて丁寧な指導に努めるとともに、「先生の指導への納得度」を高めていく。

## 【4 地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化する学校力の向上】

## 《教員回答項目》

- \*必要な情報を生徒・保護者・地域へ周知／100％／+5.3p
- \*経験の少ない教員へのフォロー体制／86.5％／-5.6p
- \*教育活動について日常的に話し合っている／94.6％／-0.1p
- \*教員間の相互理解や信頼関係／97.3％／+2.6p

## 《保護者回答項目》

- \*学校からの情報提供・意思疎通／85.4％／-3.8p

- ・保護者との意思疎通等については、高い肯定的評価を得てはいるが、教員と保護者の回答のポイント差が広がった。また、【3】の「人権を尊重する教育への取り組み」「いじめへの対応」もポイントが下がった。PTA等より保護者の意見を把握するとともに、情報の提供方法や広報のより一層の工夫・改善が必要である。
- ・教員の「経験年数の少ない教員へのフォロー体制」は-5.6pとなった。昨年と比較して有志教員による学習会の回数が減ったことによる。自主的な学習会が継続的に進めていける仕組みや体制を整えていく必要がある。

れがようやくできるようになったことが嬉しい。授業を拝見したが1年生が前向きに取り組んでいる姿が見られた。タブレット端末も使用しており、生徒も頑張っていた。しかし6時間目ということもあるからかその他の授業では寝ている生徒も散見された。これまで見学をさせていただいた授業の様子から考えると、学校が全体的に落ち着いている印象を受けた。

- ・40周年の記念式典の様子を見てみると、生徒たちが前に出て運営していた。阿武野高校の良いところは生徒が主役になれる行事がところどころにあることだ。また、先生方がそのあと押しをしてくれている。40周年記念誌の中に、修学旅行でマラソンを行ったという文章があったが、それを読んで感動した。先生方は日頃そのように生徒たちのことを考えて物事を進めているのだと知ることができた。ICTの活用と伝統的な活動とを絡めて教育活動を行っていただきたい。
- ・40周年式典で生徒たちの様子を見て、非常に落ち着いた学校だと感じた。今年、修学旅行が復活したことを羨ましく思う一方で、昨年度の先生方の「一泊だけでも行かせてやりたい」という努力によって実施された修学旅行の感動も思い出した。PTAとしても先日観劇に行かせていただいたり、バレーボール大会に参加したりすることができた。子どもがこの学校に通ったからこそ経験できたということを感じている。それがあと少しで終わると思うと寂しいところもある。受験に関しても学年の先生たちには非常に手厚くサポートしていただいている。本当にこの学校で良かったと思っている。
- ・修学旅行にしても体育祭にしても、生徒たちが生き生きと学校生活を送っている姿を見ることが増えた。3年間の中でいい思い出が生徒にも保護者にもできた。このような状態で子どもが卒業することができてよかったと感じている。

## 【第3回 令和5年1月30日(月)】

- ・部活動の加入率が減少しているとのことだが、部活動ができる学校に入りたいと子どもは言っている。感覚的には部活動をやりたくないという生徒は一定数いる気がするが、中学からの続きで部活動をやりたいという生徒もいるはず。
- ・中学校の部活動加入率は80%程と高い。コロナで中学のとき十分に部活動の大会ができなかったことも一因かもしれない。
- ・40周年記念式典でのダンス部のパフォーマンスなど、生徒が部活動を通じて生き生きと活動している姿を見ていたら興味持つと思う。
- ・12月のPTA講演会であったように、部活動に入っていない生徒に直接聞いてみるのはどうか。「なんで部活に入らないの?」と。理由を聞いてみると、彼らなりに何か自分の考えがあるかもしれない。部活をやめた人たちの意見も必要である。
- ・メールマガジンによる保護者への情報発信について、設定によっては通知が届かないメールアプリがある。アンケート類は忘れがちで、他のメールに埋もれて気が付きにくい。また、紙による配付はまず親のところまで届かない。紙よりもメールマガジンの方が伝わる。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成と授業改善	<p>(1) 生徒の参加・活動量の多い「わかる授業」をめざした授業改善に取り組み、自ら学ぶ生徒を育てる。</p> <p>(2) 学習環境の整備、授業規律の確立を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・アクティブ・ラーニング (AL)、ICT を活用した授業づくりを推進し、生徒の主体的・協働的な授業参加と活動量の増加を図る。</p> <p>・各授業の目標、ポイントを明示するとともに、授業の振り返りを行う。</p> <p>・課題・宿題による家庭学習の習慣づけ、確認を行い、授業進行に活用する。</p> <p>イ・教員相互の授業見学の活性化と共に、授業アンケート結果を活用し、授業改善を図る。</p> <p>ウ・可能な範囲での国際交流事業や英検受検 GTEC を通じて英語力と国際感覚を養う。特に昨年度から導入したスタディサプリを活用し、家庭学習の習慣化と英語力の向上に取り組む。</p> <p>エ・あぶプロの活動を通し、教材開発、研究授業、研究協議、ICT 活用及び AL 推進のための校内研修を実施すると共に、新学習指導要領に基づくカリキュラムのもとで、観点別評価の取り組みを進める。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学習環境整備、授業準備、授業規律について、各学年団での指導を一貫して行う。</p> <p>・担当分掌を中心に全教職員で校内美化を推進。</p>	<p>(1) ア イ</p> <p>・興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度を前年度[87%]より向上させる。</p> <p>・教育産業における学力生活実態調査において、学習習慣上昇者の割合を前年度[28%]より向上させる。</p> <p>・ICT を使用した授業 6000 時間以上を維持。[7779 時間]</p> <p>ウ・可能な範囲で国際交流事業の活性化。</p> <p>エ・観点別評価に取り組む。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断[生徒]における「クラス清掃をきちんとする」の肯定的評価を前年度[80%]より向上させる。</p> <p>・同「私語が少なくしっかり授業を聞く」の肯定的評価を前年度[75%]より向上させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア イ</p> <p>・授業アンケート満足度は、「授業内容に興味関心」87.6%、「知識技能の定着」は 88.6%。(○)</p> <p>・教育産業における学力生活実態調査において、学習習慣上昇者の割合は 40.5%。(○)</p> <p>・ICT を使用した授業時間は 13,990 時間。(○)</p> <p>・授業アンケートや学校教育自己診断の授業に関する項目を分析し、今後も生徒の実態や変化に応じた授業づくりを進める。</p> <p>ウ 国際交流事業について、米国の提携校とは、コロナ禍のため現地交流は行えなかったが、次年度に向けて連絡をとりあった。今年度は新たに台湾の高校とオンライン交流を実施した。(○)</p> <p>エ 学力充実プロジェクトを中心として、学期に 1 回、研究授業を実施。生徒の主体性を引き出す授業づくり、ICT 活用や観点別評価について研究協議を行い、取り組みを進めた。次年度はこの校内研修のテーマを絞り、組織的な授業改善に取り組みたい。(○)</p> <p>(2)ア</p> <p>・「クラス清掃をきちんとする」の肯定的評価は 80.3 % (○)</p> <p>・「私語が少なくしっかり授業を聞く」の肯定的評価は 75.5%。さらなる向上に努めたい。(○)</p>
2 進路意識の高揚とコース制の充実	<p>(1) 進路指導部と学年が協力して、系統的キャリア教育の充実を図り、主体的に進路を選択し実現できる生徒を育てる。</p> <p>(2) 各コースをはじめすべての教育課程において、進路実現につながる特色ある教育活動を展開し、望ましい勤労観・職業観、基礎的・汎用的能力を養う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・3年間で、LP、LHR における系統的・継続的なキャリア教育が充実するよう、進路指導部・学年・人権教育担当分掌が協議し、より良いキャリア教育を構築する。</p> <p>・進路指導部・教務部・学年団が協力して、補習・講習を実施し、進路実現に導く。</p> <p>・1年次は自尊感情の育成とともに、LP「素敵な大人インタビュー」等を通して将来の職業生活についての意識を高める。全員の3者面談を実施し、進路決定や職業を意識したコース選択、科目選択を徹底する。</p> <p>・2年次は進路体験学習等のキャリア教育、個人面談により、適切な科目選択、卒業後の進路目標の確定に導く。</p> <p>・3年次は進路別対策講座を実施するとともに、担任・進路によるきめ細かな進路相談を行い、進路指導部アンケートの「進路満足度」の肯定的評価の割合 100%をめざす。</p> <p>(2)</p> <p>ア・専門コースや選択科目が生徒の進路に結びつくよう、教育内容の充実を図る。その際には島本高校との機能統合を意識する。</p> <p>イ・地域諸団体との交流・連携を推進し、進路意識の高揚を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・同「進路や職業について学ぶ機会がある」の肯定的評価を前年度[93%]より向上させる。</p> <p>・2年生の進路目標確定 95%以上。</p> <p>・卒業時進路決定率を前年度[97%]より向上させる。</p> <p>・学校紹介就職内定率 100%。</p> <p>・進路指導部アンケートの「進路満足度」の肯定的評価の割合 100%をめざす。</p> <p>(2)</p> <p>ア・同「専門コースの授業に満足」の肯定的評価を前年度[86%]より向上させる。</p> <p>イ・同「地域の方から学ぶ機会がある」の肯定的評価を前年度[90%]より向上させる。</p>	<p>(1) ア</p> <p>・進路や職業について学ぶ機会がある」の肯定的評価は 93.1% (○)</p> <p>・2年生の進路目標確定は 100% (◎)</p> <p>・卒業時進路決定率は 98% (○)</p> <p>・学校紹介内定率は 100% (○)</p> <p>・進路指導部アンケートの「進路満足度」の肯定的評価は 94% (△)</p> <p>(2) ア イ</p> <p>・「専門コースの授業に満足」の肯定的評価は、85.1% (△) となった。</p> <p>・「地域の方から学ぶ機会がある」の肯定的評価は 89.3%。(△)</p> <p>・機能統合にかかわる新たな教室 (プレイルーム、国際交流室) の整備や新たな教育内容 (地域の教育資源を生かした福祉・保育実習、オンライン国際交流) の準備が進んだ。</p> <p>・地域諸団体や外部機関と連携して行っている諸活動の目的や内容を再確認し、生徒の実態に応じた系統的なキャリア教育プログラムとなるよう工夫・改善していきたい。</p>

## 府立阿武野高等学校

<p>3 安全で安心な学校生活の中での 規範意識と自尊感情の育成</p>	<p>(1)すべての教育活動を通じて安全で安心な学校を作り上げ、規範意識、自尊感情、人権意識の高揚に努める。</p> <p>(2)生徒の自主的活動を支援し自尊感情を育成すると共に、自らを律し他人を思いやる心を育てる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・全教職員が協力して登校時校門指導を行い、遅刻、頭髪、制服の指導を強化するとともに、挨拶ができる生徒を育てる。</p> <p>・生徒一人ひとりが「阿武野高生の代表」とであるという自覚を持ち、責任ある行動、言葉遣いができるよう一貫した生徒指導を行う。</p> <p>・カウンセリングマインドを持った生徒指導を推進する。</p> <p>イ・1年次に地域交流による「障がい理解学習」を行う等、LP、LHRでアサーション・トレーニングやメディアリテラシーの取組を含めた人権学習等を計画的に実施し、安全で安心な学校づくり、人権意識の高揚を図る。</p> <p>ウ・2年次に社会貢献活動「あぶねっと」を行う等地域交流を推進し、学校教育全般を通じて生徒の規範意識、自尊感情、人権意識を育てる。</p> <p>エ・防災教育を計画的に行う。</p> <p>・自転車運転ルールの順守、マナーの向上について、交通安全テスト等を活用し、定期的な注意喚起を行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校行事、生徒会活動の活性化を図る。</p> <p>イ・部活動の活性化を図る。</p> <p>ウ・各学年、相談室委員会、配慮特別委員会が情報を共有し、SC(スクールカウンセラー)、SSW(スクールソーシャルワーカー)、関係機関との連携を推進して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援体制を維持する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・年間延べ遅刻数 3000 人以下。 [3095 人]</p> <p>・同[教職員]「カウンセリングマインドのある生徒指導の実施」の肯定的評価を前年度[92%]より向上させる。</p> <p>イウ</p> <p>・同[生徒]「人権の大切さを学ぶ機会がある」の肯定的評価を前年度[93%]より向上させる。</p> <p>・同「学校へ行くのが楽しい」の肯定的評価を前年度[78%]より向上させる。</p> <p>エ・防災教育、交通安全教育の各学期実施。交通安全テストの全員合格。</p> <p>(2)</p> <p>ア・同「学校行事満足度」の肯定的評価を前年度[83%]より向上させる。</p> <p>イ・部活動加入率を前年度[56%]より向上させる。</p> <p>・生徒会や部活動による地域交流を昨年度[24 回]より増やす。</p> <p>ウ・「個別の教育支援計画」の作成と適切な支援。</p>	<p>(1) アイウエ</p> <p>・年間延べ遅刻数は、3,478 人。 (△)</p> <p>・「カウンセリングマインドのある生徒指導の実施」の肯定的評価は 94.6%。(○)</p> <p>・「人権の大切さを学ぶ機会がある」の肯定的評価は 92.8%。 (△)</p> <p>・「学校へ行くのが楽しい」の肯定的評価は 79.5%。(○)</p> <p>・人権に関する講演会を 1・2 学期に実施した。1 学期は火災を想定した避難訓練、2 学期は大阪 880 万人訓練、3 学期に防災 HR を実施した。交通安全テストは、全生徒が合格点をとった。 (○)</p> <p>・人権学習の時間は質量ともに充実してきているが、コロナ禍にあって生徒たちが相互交流を深める機会が極端に減少、居場所としての学校づくりという観点では今後も強化工夫が必要である。</p> <p>(2) アイ</p> <p>・「学校行事満足度」の肯定的評価は、83.6%。(○)</p> <p>・部活動加入率は 43.9%。(△)</p> <p>・生徒会が高槻島本地区交流会を実施。地域交流は、56 回実施。 (◎)</p> <p>(2) ウ</p> <p>・「個別の教育支援計画」は必要な生徒にすべて作成。定例の教育相談委員会活動を強化することができた。SC/SSW や外部機関との連携もスムーズに行えた。(○)</p> <p>・概ね達成ではできている。部活動への加入については、中学生の勧誘や中学校との合同クラブなど、今後も工夫を重ねていきたい。</p>
--	--	---	---	---

## 府立阿武野高等学校

<p>4 地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化させる学校力の向上</p>	<p>(1) 広報活動を推進する体制を強化し、学校教育活動を活性化させる。</p> <p>(2) 組織的、継続的に学校力の向上を図る。</p>	<p>(1) ア・中学校訪問、中高連絡会、学校説明会等を計画的、組織的に実施する。 イ・学校紹介スライド、3年間の学び・みえるプラン、広報誌(ABULIFE)を作成すると共に、校内のデジタルサイネージを推進し、教育活動の効果的な情報発信に努める。 ・文書、保護者メール、ホームページ等を使って保護者との連絡をより密接に行い、学校との信頼関係を向上させる。</p> <p>(2) ・日常的な OJT の推進に努め、経験年数の少ない教職員の育成体制の充実を図る。 ・府教育センターや各研究団体等の研修を活用し、伝達研修の充実を図る。 ・地域の府立学校とも連携し、多様な課題に対応するための職員研修を計画的に実施する。 ・OJT の充実や ICT の導入によって業務の効率化を進め、ストレスチェック制度の有効活用も行い、教職員の負担感軽減を図る。</p>	<p>(1) ア・学校説明会等の計画的、組織的实施6回以上。 イ・同[保護者]「教育情報提供満足度」の肯定的評価を前年度[81%]より向上させる。</p> <p>(2) ・伝達研修を含む職員研修の実施12回以上。 ・同[教職員]「経験年数の少ない教職員をフォローする体制」の肯定的評価を前年度[92%]より向上させる。 ・ストレスチェック結果の総合健康リスクが事業場全体より下位。</p>	<p>(1) ア ・学校説明会等の実施10回 進学フェア参加、高槻・島本の教員向け説明会、高槻市合同説明会、学校説明会4回、クラブ体験会1回を実施。自立支援コース説明会を2回実施し、個別の見学会については13件対応した。(○) ・新たに部活動加入生徒による母校訪問を行い、学校の魅力をPRした。</p> <p>(1) イ ・「教育情報提供満足度」肯定的評価は、77.9%(-2.8p)と目標には届かなかった。(△) ・様々な情報発信を行っているが、対象や目的に応じて媒体や内容について精査し、ホームページやグループウェアの活用などより効果的な情報発信について検討していきたい。</p> <p>(2) ・伝達研修を含む職員研修の実施12回実施。(○) ・同[教職員]「経験年数の少ない教職員をフォローする体制」の肯定的評価86.5%(△) ・教員の「経験年数の少ない教員へのフォロー体制」が-5.6となった。昨年と比較して有志教員による学習会の回数が減ったことによる。自主的な学習会が継続的に進めていける仕組みや体制を整えていく必要がある。 ・ストレスチェック結果の総合健康リスクは昨年同様、事業場全体より下位だった。(○)</p>
--	---	--	--	---